

# ほっとステイたてしな

## 出会い・ふれあい・心の交流

### 日帰り農村体験

#### 『ほっとステイ』との出会い！

まちづくり協議会ユーザーたてしな  
初代会長 長岡 義明

平成18年度、町商工会が異業種の皆さんを巻き込んだ「この街に、一人でも多くの交流人口を増やしたい」こんな思いが目的で、協議会を発足させた訳だったが、色々な事業を模索しているさなか、

目的も理念も非常にマッチングしていた『ほっとステイ』事業に出会った！正に『目に鱗』だった。当時、既に多くの実績を上げていた旧小泉郡武石村では、独自の仕組を考案、特に都市部の中学校の生徒を対象に修学旅行や学習旅行形式で、昔ながらの懐かしさを覚える「思い出の里」創りを身近にある自然や農村で、ごく普通の家庭の営みを体験学習する事業であった。

何が本物で、何が不自然かを学び取る。

他で取り組んでいる収穫体験とは全く違う、日常の人々の暮らしの中から生まれた『日帰り農村体験』である。特に、感性教育授業の一環にも役立つシステムで、カリキュラムの中に「入村心得26ヶ条」がある。生徒達はその心得を予習し、実際に行動出来るかが試される。受け入れ家庭側では、挨拶や生活態度を採点して、学校に報告する仕組みに成っている。

当、協議会の事業目的は「観光と農業」をいかに融合させて、宿泊は「高原」で、体験は「里」で！！子ども達が、この体験学習を通し「第二のふるさと」として「たてしな」が心に残る思いでの地となり、将来再び家族で訪れてくれる事、更に願うのは、いつかこの地に永住してくれたら、そんな思いを抱いたのは、私だけではなかったと思う。何と云ってもこの事業の「要」は「受け入れ家庭」や「スタッフ」そして「商工会事務局」



居間で午後の反省会（夢科の御泉水を飲みながら）

の三位一体の連携プレーが全てだと思っ。今年で7年目を迎え、昨年度受け入れた生徒数3000名を超える実績を上げていると聞いている。この事業が交流人口を増やし、街づくりの一翼を担う存在になって欲しい。今後更なる発展を願う次第です。

立科町に年間3000人程の小・中・高校生が来訪していることをご存知でしょうか。「まちづくり協議会ユーザーたてしな」の事業の一つに「ほっとステイたてしな」があります。ありのままの農村生活を共に過ごす中で、人と人とのふれあいや人・自然・食・農の大切さを教えるという交流事業です。都会の生徒たちには、はたしてどのように映っているのでしょうか。受入家庭の数の分だけ様々なドラマがあるといます。限られた時間の中には、涙あり、笑いあり、そして心と心のふれあいがあります。

そこで、今回の館報では、このほっとステイたてしなの受入家庭として携われている皆さんから寄稿していただきました。

今回の記事をご覧いただき、地域での更なる発展に繋がることを期待しています。

